

平成27年度 第2回総合教育会議

- 1 開催日 平成27年9月29日(火) 午後1時30分から午後3時5分
- 2 場所 福祉センター2階 大会議室
- 3 出席者 藤井町長、宮崎教育長、藤井委員長、渡邊委員職務代理、矢岸委員、高木事務局長、長友指導主事
- 4 報道 なし
- 5 傍聴者 なし

委員

それではただいまから平成27年度第2回西伊豆町総合教育会議を開会いたします。始めに町長からご挨拶を申し上げます。

町長

皆さん、お忙しい中ありがとうございます。この総合教育会議は西伊豆町の教育の基本を話し合う場でございます。皆様方と話し合いをしながら西伊豆町の子どもをどういう子どもに育てるのか、その大綱をこの会議で決めて、後は教育現場に任せたいと思いますので、是非ここで本当に基本のことだけを決めていただいたらどうかと考えていますので、よろしくをお願いします。

委員

それでは引き続き議事に入ります。議事の進行は町長にお願いします。

町当局

それではしばらくの間進行をさせていただきます。議事の一番上、学校統合についてであります。この前の会合の時に皆さんと話し合いをした中で統合したい、そのまま29年の4月からやりたいということを皆さんと話し合いをさせていただきました。そのような形で地区住民説明会に臨んだわけではありますが、最初の宇久須地区から統合は反対、校舎のことが主だったと思いますがそれは表向きな理由のような感じで、あの場で統合した方が良いという意見は一つもありませんでした。みんな反対ということで宇久須地区は終わり、次の日の安良里地区での説明会でも同じように反対でした。それも子どもが少なくても今の賀茂中学校を見れば何も成績も劣っていないし、悪いこともないので統合する必要はないという意見もありました。私は仁科、田子地区でも統合についての話し合いを議題に持って行ってもいいのかと思ったのですが、それを行く側の賀茂中学校側の方が反対と言っているのに、多数決で決めるということをするとう地区を割るということを心配しました。それは賀茂中学校側の父兄の方々がそれでいいのであれば、現状のままで進んだらどうかということで、そこで統合の問題は白紙に戻すという結論にいたしまして田子、仁科につきましての統合の説明会につきましては、議題を変えてお詫びを申し上げて、今後の学校の在り方ということで話し合いをしていただきました。いろいろとやり方について議会の問題にする方もいましたが、私は逆に統合できないのに仁科、田子の父兄の方に統合についての話し合いをするということは失礼なのではないかと判断いたしまして、そうい

う結論を安良里地区で出しました。確かに早いと言われることはありますが、私の考えの中でやらせていただきまして、皆さん方にも報告することが遅くなったことは本当にお詫びをしないとイケないと思いますけども、一応町の動きとしてそういう格好で平成29年4月からという話を皆様方にしましたけども、それを白紙に戻してこれから何時がいいのか検討していただき、また検討していかねばイケないと思います。統合についてはそのようなことで、皆様方から何かご質問があれば、議事録等がありますのでお答えしたいと思います。統合についてのご意見を頂いて議論していただきたいと思います。

委員 白紙ということは一休みということで、こちらからは動かないという期間に入るということですか。

町当局 仁科でやった時に、父兄の方々が統合すればいいという意見を頂きました。その時今私が言ったことの話をしました。統合の話が白紙に戻したからここで途切れたというわけでは無く、これから進んでいこうと話をしまして了解を得ました。なので統合が途切れたということではなくまだ話は続いているという話を町の方でしてあります。

委員 そこが大事だと思います。確かに反対の意見が目立ったということで、町長の判断には賛同するのですが、賛成意見が無かったという訳ではなく、やはり賛成意見はあるものだと思います。その後田子小学校に私の子がいるのでわかるのですが、ほかの学校でもアンケートは取ったのでしょうか。

委員 文教施設等整備委員会の中で校長が学校の集約ができてないという話があった中で、再度学校は学校、地区は地区、保護者は保護者でそれぞれアンケートを取ってくれという話がありまして、特に最初にやられたのが田子だったのですが、各地区でまちまちでした。

事務局 話し合いをやるどころとか、アンケートを取るところがあり、各団体でバラバラでした。小学校はアンケートの方向で行っているみたいです。次回の文教施設等整備委員会で報告するという事になっております。

委員 それで11月以降に会合が計画されています。

事務局 なので内容は教育委員会の方では把握していません。学校の方へとお任せしております。

委員 世間様に説明するには、アンケートの内容など一貫した方がいいのかと思ったのですが、今のところアンケートは田子小学校のみなのですか。

事務局 他の学校も意見集約が難しいので、アンケート方式にしようかという話は聞いております。

委員 田子小学校は複式学級というように、各地区で背景が違ってきますので、共通のアンケートだと割れることになるので、あまり漠然としたアンケートだと意味が無いと思いました。なので今回は各団体に任せたという実態です。全体的なアンケートというのは去年の段階でやっておりますので、そこで方向性は出ていてそれに基づいて統合という話をだしたのですが、こういった形になってしまったので、各地区で再度見直すということになりました。

委員 具体的に本当の意味でのアンケートというのは必要だろ思うのですが、世の中的な風評に対する答えという意味では大雑把なアンケートでも私はいいと思ひ、該当者でない住民の方からの様々な批判に対してもひとつの回答を示せるのではと感じました。全員が賛成でなければ統合できないというのは違うと思います。アンケートは今回の経緯、結果を裏付ける背景の説明になりえると。とは言えこれからも前向きに統合に向けて進んでいくという意味表明してくことが大事だと思います。賛成者に対しても必要なことだと思います。

委員 原点に立ち返ってそれぞれ再度意見を聞くということです。それぞれの立場で。トータル的な方向性は今まで見えてきていましたが、そうじゃないということが今回ではっきりしましたので、もう少しそれぞれの地区の実情なり、学校現場の不安なりを聞いてみようということでお任せをしたのですが、この後の流れとしてはそれぞれ意見が出てくると思いますので、またそのような方向でアンケートを取る形になるかもしれませんが、今回についてはこの方向で行きたいという形にしました。

町当局 ただ賛成の意見を言ってくる人が少ない。どこの場に行っても会場ではほとんどないです。最初の保護者を対象にした話し合いでは、反対の意見は無く、早くやってほしいという意見がほとんどだったのですが、地区懇談会の時は全然賛成の声は聞こえず、みんな反対でした。

委員 私もつい先日 PTA の話し合いで文教施設の役員の方が見えて、改めて統合についてどうですかと言われまして、結局他の人はしゃべらなかったので教育委員をやっている手前一言しゃべったのですが、私は個人的な意見なのですが、早急にプレハブ小屋でもいいから子どもの数を合わせるということが大事だと思っていますということを言いました。第1の問題は子どもが少ないという事で、それに向かって生じる問題は皆で協力してクリアしていくという事ではないかと。恐らく自分の地域に来るならいつでも構わないくらいに考えている人があるのかもしれませんが、それでは問題の第一行が飛ばされていると思います。

町当局 仁科の説明会で父兄の方と話した時、話し合いをしたのなら問題は起きるから、それなら統合するには何人以下になったら学校は統合するというのを決めておくのはどうかという意見もありました。

委員 それも一つの手ですね。子どもの数が少ないので、一人の意見がすごく目立ちます。百万人の中に百人や千人が反対と言っているのと、十人の中から一人が反対と言っているのでは重みが違うように感じます。一人一人の顔がよく見える小さな町で決断を強いられる責任者、首長は心苦しい思いをされましようが、反対がいなくなるまで待つのかと言われると、それだと遅すぎると思います。

町当局 今度の統合の進め方について、中学校からやりたいという説明が小学校の統合の絡みもあるから、奥歯に物が引っかかったみたいな話をしたわけで、そこが悪かったかと思います。逆に統合する時には中学校は仁科、小学校は賀茂ということを私は思っていると伝えると、今度は仁科の人が反対すると思います。とりあえず今度の説明会では中学校を決めておいて、その後、小学校の統合の話し合いをしたかったのですが、それでは足りなかったです。

委員 ただ消去法での説明が足りなかったのではないですか。まだみんな夢を見ていて、洋ランのところに建つのではないかと思っている方もいたと思います。前にPTAでの説明で、周りに民家が無ければ学校は建たないという話をしました。 [REDACTED]

町当局 [REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED] 私は西伊豆中学になるときに携わっていたのですが、田子の人たちは人が少ないからしょうがないと意見の統一ができていたので、すんなりと行きました。ただ一番抵抗したのは私です。仁科中学校は耐震強度がありませんでした。田子中学校の方はありました。耐震補強に七千万かけました。果してそれでいいのかと思いましたので、私は抵抗していました。それで父兄の方たちは、このような状況の中では子ども達がかわいそうなので統合しようということになりました。

委員 田子というのは賀茂と仁科の真ん中にありますが、端から端、賀茂から仁科というのはとても遠い。何年間も通うとなるとなおさらだと思います。

町当局 旧賀茂村では宇久須、旧西伊豆町では仁科が役場の所在地だった。両地区とも無く

なるということについて抵抗がある。田子や安良里は統合して役場や学校が無くなることに對して意外と慣れていると思う。今度の統合をして支所を宇久須に残しました。その支所から職員を本庁に持ってきた。それに対してもものすごく抵抗してきました。防災を支所から抜くのなら、ほかの課を持ってこいとか。まだそのような考えがあると思います。やはり仁科地区が大きな統合をして、仁科地区から役場が無くなったら仁科の方は抵抗するのは確実だと思います。こういうのを学校や父兄方からどうしようもないという意見が出てくるまでを待つしかないのか。

委員 そうならないのが不思議ですね。私は親御さんの方から町にお願いしないのかと思うくらいですが。

委員 私の地区の方で、自分の理想としている小中一貫教育を主張し、1年から3年。3年から中学1年。そして2年から3年。こうやればスムーズに行くということで、今度意見を聞きたいと言っていました。それは少し待って下さいとお願いしたこともありました。

町当局 この問題もそうですし、斎場については逆ですが、自分の地区に来るのは嫌で、他の地区なら賛成する。となると困るだけ困り町へともうだめだと言ってくるのを待たなければ出来ないと思っている。今年産まれてくる子は田子地区で1人というような現状を田子地区だけの問題とするのではなく、西伊豆町全体の問題とする気持ちでいかなないととんでもないことになると思います。それが欠けていると思う。

事務局 安良里地区も今年産まれてくる子は1人となっており、宇久須地区を合わせても3人です。

委員 1人でも学校を残してほしいという人がいるので、それはそれで一つの意見なので足蹴にすることはできないのですけども。統合するにあたっての問題が大きくなりすぎて、統合をしなかった場合の問題があまりにも小さくなってしまっている。つまりは3人のクラスで仲良しだったとすると、世の中に出ていったら、あまりないことだと思います。3人しかいなくて全員仲が悪いグループだったらそれはそれでよくなくて、それもあまりないことだと思いますが、仲の良いグループと仲の悪い敵対グループがあるくらいのストレスがいないと、人間力を養わなければいけない。人間80年生きていく中で心豊かに生きていくというのはとても難しいことなのに、小学校時代に仲良しだけのクラスで6年間終わってしまった。また、人間が嫌だなんて思うだけのクラスで6年間終わってしまったということになると、何かしら人格形成に影響するかと思う。一人一人の人生であり、80年生きてみて結果的にその6年間が良かったか悪かったのか今答え合わせは出来ないが、非常に大きな曲がり角の選択について話していると思います。放っておいたら統合はしないで済みます。ある種それが一番波風立たないと思います。世の中何でもパソコンとかでやっている中、これから

の人生で人と出会い接することの大きさ、これは他には代えがたいと思う。親が送り迎えて苦勞するかもしれない。学校の先生が何人か辞めることがあるかもしれない。色んな問題があるかもしれないが、何にも代えがたい問題が今起きていると思う。その一点なんです。

委員 委員がおっしゃったのは小学校の6年で、統合しない限りは幼、小、中ありますので、それが15年続くことになるのですよね。

町当局 子ども達が一学年を形成するのに、賀茂中学校で10人以下の学年がいいのかどうなのかというところでいいわけがないと思ったので、田子小学校の複式学級も1学年の7人の学年も深刻に思いましたので、先に中学校の統合を進めたのですが、親御さんは考えなくてもいい、立派に育っている、部活もちゃんとできている等の意見が出てきたので、何もいうことが無くなりました。それならみなさんでやっていってください。それまで私は統合の話はしませんということになってしまいます。

委員 説明会の時に予想は逆だったのですよね。何故そのようなことになってしまったのか。何か動きがあつてなのか。

町当局 理由は平成29年4月というのは早すぎるというのが一つ。それと西伊豆中学校は浸水域なので、なぜ安全な方から危険な方へ行かなければいけないのかというのが二つ。最初にやった学校単位の話し合いの中で早くやってほしいという意見があったものですから、なので早くていつ出来るか教育長に確認してもらいましたら、29年4月ならなんとか間に合うという返事してもらいましたので、29年にしました。二つ目のなぜ西伊豆中学校を使うのかは、あそこは2階に上がれば津波の高さ、浸水域から外れます。中学生ならば2階ならば苦勞しなくても逃げられるのではないかと、仮に小学生1年が2階へ上がるのと、中学1年生が2階へ上がるのとは中学生の方が容易に上がれるという判断のもと、西伊豆中学校を中学校の統合先に、そして賀茂小学校を小学校の校舎にしたいという腹だったのですが、なかなか聞き入れてもらえませんでした。私は安全は確保できるということで西伊豆中学校を校舎として選定したのですが、そこで父兄の方うまくかみ合わなかったところです。

委員 私も数人の賀茂地区の父兄の方と話す機会があったのですが、最初の時には青写真のような感じで受け取っていて、統合賛成と言っていたようなのですが、次に来た時には明確に2年後に仁科に統合しますと言われたので、泡を食って不信感が出たというか、賀茂の人たちから見たらもう少し慎重にゆっくりと進んでいくものだったのかと感じました。

町当局 29年が7人になる学級があるので、それに合わせたらどうかということで急いで計画してきました。

委員 もう決まったような感じで説明されたという話もありました。

町当局 そういう意見があるならば言うてくれればいいのですけども私が説明しても、もうネックになって聞き入れてもらえない。

委員 ただ今言った通り、消去法で行くと仁科しかないのですよね。これが例えば来年になってこの意見は変わりますか。

町当局 私は変わらないです。10年後に小中学生が今の賀茂小中学校に入れる人数になっていないと、私が町長をやっていたらやるつもりがありません。

委員 あの地震以降しょうがないのですが、安全な所だったら行くけれど、今よりも安全でない所だといけないという認識や意識がどうか。西伊豆に住んでいて安全というところは無いと思う。そのようなことを町長や誰かにどこが安全か確約を得ようというのはどうかと思います。私は何処だろうが確約なんてできないと言うべきだと思う。

町当局 私が防災訓練の時にどこが安全なのかと聞かれると、地震が起きて津波が起きて残っているところが安全ですと言うのですが、実際安全だろうというところはあるのですが、安全というところはない。その時になってみないと分からない。

委員 たまたま賀茂小学校中学校までは津波が来ないという結果が出ただけですが、裏に川があるので、安全とは言えないのですけどね。

町当局 それを言ってしまったら元も子もない。来ない前提で考えなければならぬ。

委員 どこにいても危険。静岡に住んでいたならそういう覚悟が必要だと思う。亡くなったら町長の所為でしょうか。避難訓練とかの質は高めていかなければいけませんし、避難経路も常に模索していけないと思いますけども、それだって100点にはならないと思う。

町当局 確かに浸水域になっているけども、2階へ上がれば大丈夫、3階屋上へもあるというところなので、そのあたりが分かってももらえない。

委員 この町は地震的にみたら非常に危険な所です。

委員 地震ばかりだけでなく、豪雨もありますからね。

委員 もう一点なのですが、田子小だけでも仁科の方へ持っていけないのですか。賀茂は

賀茂だけ小学校、中学校がまとまっている。田子と仁科だけでも統合というのは考えていないのですか。

町当局 今はまだ考えたことは無い。やろうと思えばやれることなのですが、それでいいのかと思うところもあります。本当にそれをやるにはちゃんと話し合いをしないと、小学校の統合を全体で考えないといけない。

委員 大きなリフォームではなく、より段階を踏んでいくという手順は。ただバスなどの面がネックになってくると思います。

町当局 金銭的な面は、ある程度お金を出せば大丈夫な話なので何とかできます。

委員 高台に持っていくというのは無理かもしれませんがね。

町当局 田子の人たちも、西伊豆中学校が浸水域に入っているので宇久須に行きたいという意見があると思う。

委員 そうなると中学校の統合が進まなくなる可能性がある。町長の言うとおりに順番に統合していくのが理想だと思う。

委員 賛成だった人にも申し訳ないですね。具体的にこんな意見を頂いて白紙になりましたという報告を明確に出した方がいいかと思うのですけどね。統合反対の人たちへのバッシングみたいになってしまいますかね。

町当局 それをやると地区を割るような感じで嫌なんです。私は一色が採石場の件でもめて割れてしまったので、そういうことは絶対に起こしてはいけないと思っています。

委員 そう考えると松崎町はすごいですね。よくあれだけの学校をまとめて統合しましたね。

町当局 当町は島がくっ付いた地域なので難しいところがある。[REDACTED]

委員 確かによくあれだけの合併をいっぺんにやったと思いますね。

委員 どれだけの準備期間をかけてやったのか。

委員 でもある程度強引にやったみたいですよ。

委員 やっぱりそうですよね。反対ゼロを待つということではないのですよね。やっぱり

先ほどあった通りある程度リミットを決めた方がいいかもしれないですね。

町当局 本当に決めてしまうのが早いのですけどね。

町当局 一番の問題は校舎の選定をどうするかですね。

委員 一般的には大型校にくっつくという形ですね。津波浸水域というのがありますが。ただ自分の子どもがいるときには転校させたくないというのが一番なのですね。今回一番反対しているのは自分の子供が小学5年生から中学1年生までの当事者です。自分の子どもが在学している間、まさかそんなに早くやるとは思わなかった。もっと先にしてほしいというのが強いので、統合したくない理由として危険だとか早すぎると言っているだけなので、声が大きかったのは当事者ですね。自分の子がいる間3年くらいは放っておいてくれという感覚だと思います。統合は賛成だけ。

委員 やはり中学生の場合は、受験を控えていると言われるとなかなか言えないのですよね。

委員 小さくて出来るという訳ではないですね。ある程度大人数いて成績の差ができて、負けなと思うようになってくると思う。

委員 多感な時期に一緒になったら、いじめが起きてしまうというような話になってしまいますね。小さくまとめようとしていて少し過保護ではないかと思います。だからALTをみてほしいですね。地震を経験したこともない1万キロも離れているところから来てくれているところが、10キロの中で危険だ、危険ではないと言っているのですからね。

委員 全体的に視界が狭いような気がします。死ぬまでずっと伊豆で暮らす人を育てようというのならなんとかなると思いますが、人間力は低下すると思うのですがね。とにかく世の中広いということを感じてもらいたい。他人は自分からしたら皆変わり者で、その変わり者である他人とどう関わっていくかが大事で、それで人生が広がっていくかと思う。問題が見えていないような気がしてならない。

町当局 やはり全体を見られていないと思う。私を含めてですが、ここで育った人たちは意外と組織を知らない、全体を見られないところが欠点ではないかと思う。

委員 この間、西伊豆から県東部のある市に就職したと青年と話をする機会があったのですが、そこは人が多く競争が大変ですと言っていました。ただ、もっと大きな街ではもっと厳しい環境で生きていかなければなりません。多くの人間と接する事は勉強では補えない大きな経験で、人間力を育むと思う。

委員 松崎高校までいくと18年ずっと一緒ということにもなりますね。

委員 反対というのは一つの意見ですが、どこまで考えて反対しているのかを聞いてみたい気がします。

町当局 津波危険水域で危険だと言われると何も返せないのですよね。私たちはちゃんとした理由があって大丈夫、安全を確保できますと返すのですが、それでも安全ではないと言われると何も言えない。

委員 ポーズとしては首尾一貫してメッセージは出していった方がいいですね。

町当局 やりますが、私個人としてはやりたくないですね。ここまで言われているとやりたくないです。

委員 宇久須では統合は反対だと言ってくるのでは。静浦みたいに小中一貫校と言っている。

町当局 地域性を考えていない。

委員 この間西伊豆中学校に行きまして、検討会の時に学校が荒れている、学級崩壊している、子どもがいじめられてしまうということでしたので、議員の方々と視察に行ってきました。実際はみんな落ち着いていまして、とても静かでした。とても学級崩壊しているというような感じではありませんでした。逆に元気がないと思うくらいでした。

委員 私も学校訪問へと行きましたが、言われるほど荒れていなかったと思います。

町当局 父兄は西伊豆中学校が悪くて心配で行かせられないと言っておりますね。指導主事が説明会の時に、説明をしてくれたのですがまったく聞いてくれませんでした。あの雰囲気では統合は出来ない。統合については今から続けて話し合っていかなければならないのですが、どういう方法がいいのか。やはり統合はしないといけないと思います。

委員 そこはブレなくていいと思いますね。ただ場所の問題で危惧していると。

町当局 なので私がやっている間は町としたら、新しい施設を造るとかではなく、既存の施設を利用してうまく回して最終的に一か所にというようなことができれば一番いいと思っておりますので、大掛かりなお金は掛けたくない。

委員

町当局

委員

町当局

委員

確かに11人になってしまうと厳しいですね。いくら統合したとしても、40人以下になってしまうたら分校ですからね。

委員

そろそろ全員が行っても120人に届かないくらいですかね。

町当局

そういうところも考えなければ。私はよく言うのですが、今の人たちは将来を見ていない。自分の子どもだけを対象としてみている。自分の子どもがいる間は大丈夫だというのが強いと思う。だけど私たちは全体を見なければならぬ立場にいるので、全体を見るとそのあたりを考えなければいけないですね。やはりすこし考えのずれは出てくるものですね。

委員

委員

何事も前向きにということですね。

町当局

そうですね。統合の話を止めないで、継続的におこなうということで、私の方は進めていきたいと思います。現状では統合は無理だろうという結論に私は達しております。皆様方にもその辺を理解していただきたいです。

委員

暫くは前には進めないということですか。

町当局

進める何かがあれば進みます。

委員

文教施設等整備委員会も11月にありますから、その動き次第ですね。それは定期的にありますので。

委員

文教施設等整備委員は例えばどういう動きをしているのですか。

委員 基本的に全員賛成ですね。ただ統合については賛成ということで、場所の問題についてはさまざまな意見がありました。

委員 P T Aの会議に出席しまして伺いまして、前P T Aの会長さんと話したのですが、統合に対していくつ機関があるのですか。

委員 基本的にはそこだけです。その時は町議会の検討会のようなものがあったので2つありましたが、今は文教施設等整備委員会だけです。

委員 それはあくまで施設に関することだけですか。

委員 違います。この統合問題についてです。

委員 なんだか複雑ですね。

委員 そこが続けて会合を重ねていくところですね。

町当局 そうですね。学校長、地区代表、P T A会長ですね。

委員 そんなに役員がいるのですね。

委員 ただそこで決定したら、こちらで話し合いをして最終的に決定します。文教施設等整備委員会は意思決定の場ではないです。

町当局 そこを一つにまとめてしまえばいいと思います。何回も出てもらわなければいけないですからね。委員がその人たちしかいないので、それに関係している会合をやらなければいけないとなると何回も集まってもらうことになってしまう。

委員 独占にならないように、総合的に監視するという意味でしょうか。

町当局 監視という意味ではありません。

委員 そうすると教育委員会としても話し合いは無いというわけでは無いですよ。

委員 文教施設等整備委員会の方向性次第ですかね。ある程度方向性が見えてこない、今は白紙になっていますので。

町当局 けどもここで統合をしなければならぬという意見が出てくれば、私たちも無視

できないです。それを逆に文教施設等整備委員会に言ってもいいのではないですか。総合教育会議で統合を進めなければならないと強い意見が出てくれば、文教施設等整備委員会や議会に投げ掛けてもいいのではないかと。それはまた町がどうしてもやりたいということであれば、こういう会合へと提案をしてみて、ここである程度意見がまとまったなら、各機関へと話をしてみてどうだろうかと思ってしまう。

委員 何もしないと文教施設等整備委員会からきた意見をこちらで審議するということですか。

委員 教育委員さんは地区の代表ということもあるので発言しにくいですね。教育委員会で最初に意思決定してしまうのはどうか。方向性は出す必要はあると思いますが。統合の課題というのは継続的にやっていくべきだというスタンスで行くのは必要だと思いますが、ここで何かを先に決めてしまうのは問題があるかと思っています。

委員 文教施設等整備委員の方が、学校としての意見とかを聞いた後、ここで改めて皆さんの意見を聞きたいという話がありましたが、アンケートが全てではないですかとは言ったのですが。学校としての意見なんて言えないですね。

委員 立場的に言えないですね。やはり学校長は中立的な立場にいないといけないというところがありますので。

町当局 それならば講演会。 [REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED] 第三者的目線で人数が少なくなるとこういう弊害が出てくるということを教えて、お互いに勉強しないとできないのではないかと思う。それも一つの方法だと思う。

委員 みんな統合自体は反対なのではないと思う。

委員 そうですね。

町当局 表向きにはそうだと思いますね。皆さんは会合に出ていないのでそういうことをまとめてくれるけど、言った人たちの本心は探るとそうではないと思う。

委員 だけど表に出てきた意見がそうですが、時期とか校舎とか…。

町当局 それは表向きの意見。本当は自分のところでなければ嫌だということを理解しない

と。

委員 そのあたりを把握していかないと、今後の進め方が困りますね。

町当局 地区から子どもの声が無くなるよりも、子ども達の教育の環境の方が重要だということをお訴えて分かってもらわないとだめだと思う。今はおそらく親御さんたちは自分の地区から子ども達の声が無くなるのが嫌だという気持ちが大いだと思う。

委員 昔からこじつけで理由はそれが出てきますね。子どもの声が聞こえなくて寂しいという。

町当局

[Redacted text]

委員

[Redacted text]

町当局 そういうところを考えないと、表に出てきた意見だけで判断しておかしい結果になってしまう。これは私の考えすぎかもしれませんが。委員長が言ったようにもっと把握しなければいけないのかもしれませんが。

委員 そうかも分からないですね。統合には賛成だけでも、こういう理由だからと言い訳していますが、本当は腹の底から反対なのかもしれませんね。そうすると根が深いかも知れない。

町当局 最初の学校区での懇談会で、田子小学校でやった時に、地区が寂しくなるから学校を置いてもらいたいという意見は結構ありました。

委員 ただ田子地区はいけるところまで行ってくれと言われたのですが、今年産まれてくる子どもが一人ではないですか。一人はいけるところなのか、いけないところなのか。

委員 もうこれで子どもの生まれてくるのは確定なのですか。

委員 これから母子手帳を貰う人は4月以降となるのもういないですね。

委員 説明会の意見というのは、結局強く意見の言える人が言って、他の人は意見の言えない状態だったのですか。

委員 そうです。しかも来ていたのは殆どが反対意見を持った人でしたね。

委員 そうすると賛成の意見を持った人もいるのだが、反対意見に押されて、意見の言えないという状態ではその地区の意見とは言えないのですよね。

委員 なので今回は各地区でもう一回やり直しということになりました。

町当局 だけど町としたら説明会を開催して出てきてくれた人、そこで出た意見を私たちは尊重しなければいけないと思う。町としたら正式に会合をやったので、そこで出た意見を尊重しないで、他のところで出た意見を尊重したらおかしいのではないか。どれくらい賛成の意見があるか分からないが、ちゃんと出てきて言ってほしい。言いにくいというのはあると思うが、そうしてもらわないと町としても正式に取り上げられない。その中で賛成意見があればこういう意見もありましたということを議事録でも出せますが。悲しいかな全然なかった。

委員 具体的に29年4月西伊豆中学校と出した結果そうだったので、その前は一般論しか言っていないので、いくら聞いても議論になっていない。

委員 2回の説明会で、出席者は結構変わっていたのですか。

事務局 同じ人もいましたが、だいぶ変わっていました。2回目は統合時の当事者の保護者が殆どだったと思います。

委員 やはりそこまでしないと出てこないのかもしれませんがね。

町当局 ですが私は別に悔しさとかはない。子ども達を思ってそのようにやったらどうかと投げかけただけなので、それがいらないというとなるとやらないだけです。子どもたちのことを考えてやったことが、親がそんなことは考えなくてもいいと、大きなお世話だと解釈しましたので、それならそれでもいいのかと。また、変にやるとおかしなことになってしまうと思っています。

委員 確かに一人になってもどうもこうもないのですよ。放っておけば問題は起こらないと思います。

町当局 10人やそこらの学校が3つあったら町が何とかするかもしれない。強制的に統合というのをやるかもしれない。町内の1学年が10人程度になった時に学校が3つも必要か否かというところ。

委員　　そこまで行けば何かしろの意見は出てくると思いますね。

町当局　　そうすると1学年3人の学校が3校も必要なのか。

委員　　1学年10人でなくてももう少し手前で考えたらどうか。

委員　　1校につき1千万くらいかかりますね。基本料金とかで。静岡市の山の中みたいに、隣の校まで20キロ、30キロくらいあるところなら全校で3人しかいないところもあるのですが、この場合は10キロ圏内の話なので、十分統合はできます。文科省の基準の1時間というのもクリアできるのですよね。それを1人まで放っておく理由はないです。

町当局　　1学年が10人、15人になった時にどうするか投げ掛けも必要なのかもしれない。町としたら全体の人数が何人以下になったら統合しますと決定した方がいいかもしれないですね。

委員　　それも出すタイミングが大事かもしれないですね。

委員　　5年10年後だと遅くなりますので、それより早いタイミングで行かなければ。

委員　　実際表を見れば明らかですからね。感情的に強行採決みたいのだとストレスになりますね。大きな街だと顔が見えないですが、こんな小さな町だと顔にピントが合ってしまう。賛成も反対も一人一人の意見も重いですし。そこはもう数字で事務的に進めていく必要ですね。

町当局　　話し合いが出来なのならそれもひとつの方法だと思います。

委員　　一人一人は本当にいい人ですが、会議になるみんな静かになってしまう。会議が終わると話始めるのですが、確かに大勢の前で意見するのが不得手な人もおもしろい。

町当局　　会議では皆何も言わずにいるから私が決めるのであって、そうすると後で町長は横暴だと言われる。それなら投げ掛けてほしい。課長会議でも同じでものを言わないで決まってから文句を言う。

委員　　町長や一番上の人は、右か左かどちらかに振るので結論が出ますが、事後になってどうこう言うのはナンセンス。それまでの過程のところで活躍してほしい。

町当局　　それが西伊豆町の住民にいいところかもしれませんが。

委員 それも含めて大人数で接していく場がないと、そういうところが成熟していくことはないと思います。

町当局 とりあえず統合のことについて、これで閉めまして、2番目の町の教育大綱の案について教育長の方から説明をお願いします。

委員 それではお手元の次第を1枚めくっていただきまして、西伊豆町教育策定について(案)というのがございます。そちらをご覧ください。初めに1の(1)ということで、教育大綱の位置づけを確認いたしますと、今年度から新たに法律に基づいて、各地方公共団体の長は、地域の実情に応じて教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるということになりました。(2)の大綱の定義ですけれども、①大綱は教育行政に関する総合的な施策目標及び根本となる方針を定めるものであり、詳細が施策について策定するものではない、というものです。それから④大綱の対象期間は、4年から5年程度を想定しております。③の大綱の記載事項につきましては、①予算条例等町長の有する権限に係る事項の根本となる方針が考えられ、②大綱は総合教育会議において協議調整し、③町長と教育委員会が合意し、大綱に記載した事項双方に尊重義務が発生します。というものです。(4)の②大綱の対象期間中に新たな町長が就任したような場合、あらたな大綱を策定するという場合には既存の計画を変更することが望ましいということになっております。そして一番下の枠内の通り、大綱とはその地域の教育の目指すべき姿を明らかにするものとなります。これらを踏まえまして次のページの大綱の案をご覧ください。西伊豆町教育大綱(案)ということで、2015年から2018年の4年間ということで作っております。大綱の構成といたしましては、基本理念、基本目標、重点施策となっております。策定期間は次回総合教育会議の中で協議していただきますので、こちらの協議、調整を経て平成27年11月の策定を目標としております。そして次のページをお願いします。この大綱は町長との意向を伺いまして、踏まえながら策定したものでございますが、基本理念として「夢を育み、ふるさとを語れる人づくり」です。基本目標は教育の充実、西伊豆で育ち、育てるです。基本目標の実現に向けて、改革、改新を行い、これまでの地域の特色に加えて、国際教育の充実を図ります。では次のページをご覧ください。まず大柱の1として、教育の充実を図るため、教育行政の改革、改新を行います。大柱の2として、地域の特色を生かしつつ、国際教育との融合を図りますというものです。それからその下の中柱の1として、学校、家庭、地域の連携推進。中柱の2として、幼保、小中学校、高校の連携推進。それから中柱の3として、地域の自然、伝統文化を生かし国際化に対応できる力を育む教育の推進ということで記載してみました。次のページをご覧ください。重点施策といたしまして、1の確かな学力と自立する力を育む教育から始まりまして、8番目の子育て支援の充実、子どもの居場所の確認まで8項目挙げてみました。特にこの中で新たなものとして、光ファイバー網の新設ですとか、中学生の国際交流、それから放課後児童クラブの創設の検討など新たな事業が含まれてい

ます。というような形で一通り簡単ではございますが、大綱といたしまして、西伊豆町としてはこういう教育をしたいということを念頭にしながら、進んでいきたいというのが今回の大綱の案になります。以上です。

町当局 今説明がありましたが、これをすぐに議論するというのは難しいことだと思いますので、今日は持ち帰りまして、次の会合の時に話し合っていきたいと思っております。皆様がどうでしょうか。今教育長が説明したところで大まかなことで何かあれば如何でしょうか。

委員 これは大きな表現でしかないので、何か付け加えたいものがあればお願いします。

町当局 施策の1番に重点施策とありますが、この中で光ファイバーの新設とありますが、来年度西伊豆町全域で光ファイバーを布設します。それとその下の国際教育と交流、中学生の国際交流ということで、私が台湾へ行った時に、台湾の南の高雄の西側に澎湖島という島があります。そこに澎湖県というところがあります。そこに堂ヶ島のトンボロと同じ物がありまして、話をしたところで姉妹公園を結んだらどうかとなりまして、そこに県知事がお見えになりまして、具体的な話になりやろうかということで、来月の末に締結の予定でおります。その中で、知事の奥様が言うにはホームステイをやってもいいとまで言ってくれました。色々話をしている中で、中学生の修学旅行を少し町が負担してどうかと話をしたところ、3年やそこらで終わるような事業では学校側は困るということと、私の任期が後1年半しかないので、確約できないのでそれは次の町長に任して、とりあえず学校で代表を送り込んだらどうかとなりまして、来年度予算で一応各学校から2人か3人程度、4人か6人くらいの人数を国際交流という形でやろうかと思っております。そして今一番課題になっております、子どもが少ない少子化の時代でありますので、子育ての支援の充実はどういうものか、議会でも検討しながらやっていかなければいけないかなと思っております。これも何かの形で表したいと思っております。後は改革とかは教育長がちゃんとやってくれると思いますので、お任せしております。7番目の旧田子中学校活用の具体化につきましては、25年の災害の時のボランティアの団体でIVUSAという大学生の団体があるのですが、そこが毎年宇久須の黄金崎の松の整備などを色々やってくれており、今年は各地区の祭りのお手伝いをさせていただきました。そういう中で、町は辞令を渡しまして、旧田子中学校の跡地の絵を描いてくれということで、若者が使う施設としてはどういう施設がいいのかというのを、一応絵をかいてもらっております。そういうことで色々な面でそういう方々と交流しながら、外から来た人たちが西伊豆町をどうしたらいいか考えてもらおうということを進めておりますが、そういうことも進めていきたいと思っております。それと学校施設の整備、これはもう統合とは関係なしにやっていこうと話をしました。給食施設は別として、特に雨漏りは、ひとつ旧田子中の体育館について、補強で何とかするという結論が出たが、だけど補強でやるとなるとだいぶかかると思いますね。ちゃんと計算してみないと分かりませんが、そこに新

しいものが必要なのか。田子小学校がありますので。しかし田子小学校だとバスケットボールができなかったのです。たっけ。

事務局 ミニバス用のゴールしかありませんので、大人のバスケットボールは出来ません。

委員 それじゃあお金をかけるのなら、違うものにかけるようがあるのではないか。温水プールを造りましょう。お年寄りは喜びますよ。避難タワーとかはどうでしょうか。

町当局 避難タワーは造らない。あれはサビとかがついてくるので維持していくのにお金がかかる。将来人口が少なくなった時に維持していくとすると、負の遺産になる。

委員 個人的にはあまり必要は感じないのですが、お金使うとしてみんなが納得するものと言った時にそういうものが喜ぶのではないかと思ひまして。

町当局 山のような土のものならいいのですが、あのようなものだと。

委員 しかし確かに新しく建てるのと同じ金額で、廃校になった学校の体育館を補強するというお金の使い方はどうかと思う。

委員 でも利用者は結構いるのですよね。

町当局 ええ。結構使っております。

事務局 社会教育だとバスケットボールとバドミントンが使っていますが、バスケット部の利用は少なくなってきたと聞いております。

町当局 お金をかけるところはどこかというのはありますが、前から議員の中には体育館をどうにかしてほしいという意見はありました。重点施策の中にも個人的に色々あると思いますが、何が必要なか必要なものを把握しておかないといけないかなと思う。ざっと見てこういうことを付け加えたらどうかというもの、変えた方がいいと思うようなことがあれば知らせてください。

委員 確実に決まっているのは、光ファイバー網を来年度予算でやるということですね。

町当局 それで中学生国際交流は、一応学校の方もやるということで大丈夫ですね。

委員 はい。学校の方も是非やりたいという方向です。

委員 学校の先生とかも、とても充実していいと思いますけども、僕からしたら東京

も外国に思えます。いきなり海外の田舎町に行くのもいいですが、私は東京の方がよっぽどカルチャーショックがあると思いますし、そこから得るものも新鮮だと思います。私も東京に住んでいたのですが、ここに15年いてお葬式で東京の山の手に行ったのですが、実際外国のような感じでした。世界的に見たら大きな規模の都市です。別に東京でなくても、人が沢山いる都市に触れ合うのも大事なかなと思う。

委員 色々経験するという面ではいいと思いますけどね。

委員 何事も体験しなければ力は付きませんからね。

委員 あらゆる経験をゼロから1にしてあげることも大事だと思います。親のいないところで子どもは育つではないですが、学校は社会だと思いますね。あれが社会の縮図になっていけばと思います。良い奴がいて、悪い奴がいて、お兄ちゃんがいて、弟がいて、好きな人がいてという。

町当局 それにしたら先生の地位が落ちてきた。上げなければいけません。私はそう思います。先生がビクビクしてやっている。

委員 先生自身にも体験が少ないと思う。昔みたいに色々と揉まれてきた人が少なくなってきた感じがしますね。

委員 自己判断で自分が責任を負うことが嫌になったのでしょうか。マニュアルどおりに行動してきて、人間力が無くなってきていると思う。世の中が便利化に進んできて、何もなくなってきて、便利さが人間の能力を奪ったと思いますね。臨機応変に勝る対応はない。

委員 私もそう思いますね。頭を使わなくなってきている。

町当局 今はそういうような生活の仕方なので、進歩が無くなってきている。

委員 やはりいろんな人間がいた方が問題が起こる。それに対して問題に対峙するようになるのではないのでしょうか。2、3人では大した問題が起こらない。なので人間力が育めないのですよね。

町当局 では、最後にその他で何かあればお願いします。

事務局 その他の件でお願いします。A3版の紙面をご覧ください。4月に行われました全国学力学習状況調査の結果の報告です。表をご覧ください。そもそもこの調査の目的は何なのかといいますと、学校の平均を比べて順位を出すことが目的ではなく、教育施策の成果と課題を検証して改善を図ることや、教育指導の充実、学習状況の改善に

役立てることが大きな目的になります。実際に27年4月21日に全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に行いました。教科は国語、算数、数学、理科の三教科と質問紙調査という形で行いました。どんな結果だったのかというのを分析しますと、表をご覧ください。これは西伊豆町における分野別の平均正答率を全国や県と比較しております。ちなみに二重丸は3%上回っている。逆に三角は3%下回っている。普通の丸はプラスマイナス3%以内ということを示しています。このデータから西伊豆町の子ども達の良いところ、頑張りたいところというのを右側の表に記載しております。小学校の特に良いところは、算数の少数や分数の計算を正確に行うこと。逆に特に頑張りたいところは、理科の知識、学んで得た知識を自然や生活に当てはめること。中学校となりますと、特に良いところは、理科の基礎基本的な知識が身についている。特に頑張りたいところは、数学的な表現を用いて説明や証明をしていくということです。これが県や全国に勝った、負けたというデータだけですので、裏にレーダーチャートのグラフがあります。これを見ますとより具体的に見えてきます。そうしますと訂正があります。左が小学校、右が中学校なのですが、中学校のところに算数と書いてあるのですが、正しくは数学でした。すみませんが訂正をお願いします。そうしますと全体的に見ますと、そこまで県や全国に負けていないということが見えますが、よく見ますと小学校では国語Aの話すこと聞くこと、中学校をみると数学のBが大きな課題だということが分かります。こういったことについては、指導改善のポイントとして、それぞれの学校でさらに詳細に分析してこれからの指導に役立てていきます。次に質問紙につきましてはまた表に戻ってください。(2)になります。7つの質問を並べてありますが、本当は87項目あります。87項目から7項目に絞って掲載しているのですが、この表に関しましては二重丸が10%上回る。三角は10%下回る。普通の丸がプラスマイナス10%となっております。それで、一番言えることは、西伊豆町の子ども達は地域の行事に積極的に参加するなど、故郷をとても大切にしているということが、全国や県と比較して分かります。この故郷を大切にするという姿勢を大切にしながら、家庭では学習時間を十分に確保して、学習習慣を身につけるという関わりを心掛けていきたいと思いますというメッセージを、こちらに表現いたしました。この学力学習状況調査の公表につきましては、教育便りやホームページに掲載する形で町民に伝えていこうと思っております。

町当局 他に何か質問はありませんでしょうか。何かありましたら是非お願いします。

事務局 この後の教育委員会の定例会でも議題に上げますので、その時にでも結構です。

町当局 では与えられた議事は終わりました。後はお願いします。

委員 みなさん本日はありがとうございました。次回の第3回目の総合教育会議を10月の19日の月曜日に予定しておりますので、是非御出席をよろしくお願いします。以上をもちまして、総合教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。

以上